

平成13年10月11日

報道機関 各位

広島大学総務部大学情報室長
西田良一広島大学の地域医療連携のための情報システムが完成
「保険薬局ナビゲーション／院外処方情報配信システム」の
開発(国内・世界初)及び運用開始について

このことについて、別紙のとおり広島大学病院では、広島県薬剤師会のご協力により、「保険薬局ナビゲーション／院外処方情報配信システム」を全国に先駆け開発(世界初)し、10月12日から運用を開始いたしますのでお知らせします。

参考

○運用開始予定日時

10月12日(金)

午前8時30分頃

(当日の運用終了は、午後3時の予定です。)

○運用場所

医学部附属病院外来ロビー「院外処方情報FAX送信窓口」

【お問い合わせ先】

広島大学医学部附属病院医療情報部長
石川 澄

TEL: (082) 257-5082

(ダイヤルイン)

[発信枚数; A4版 2枚(本票含む)]

[システム概要](#)

広島大学の地域医療連携のための情報システムが完成 将来の電子処方せんに向けて

このたび広島大学病院では、広島県薬剤師会のご協力により、「保険薬局ナビゲーション／院外処方情報配信システム」を全国に先駆けて開発いたしました。

このシステムは、本院で院外処方せんを交付された患者さまの利便と、保険薬局での調剤における安全性の向上を支援するというだけでなく、広島県下および周辺県の地域との地域医療連携に寄与することを目的に企画している諸事業のIT基盤の一つとして開発しました。

ご承知のとおり従来は、本院外来ロビーに患者さまを「お待たせしない」という目的で、患者さまが調剤を希望される薬局に、患者さまが医師から交付された処方せんの内容を、事前にFAXで送るサービスを行ってまいりました。

さらに、薬局の薬剤師がその処方内容や、適用できる保険に疑問がある時など、病院の担当医と連絡を至急にとりたいというような要求があるのですが、病院との距離の隔たりに阻まれて思うように連絡が取り合えず、院外の薬局での調剤は、安全性の確保の上では、かえって患者サービスの低下だといわれる状況も出ていました。

このたび広島大学病院では、病院情報システムとFAX配信システムを連動して、医師が診察室で入力した処方情報を、病院ロビーの窓口に配置したタッチパネル方式の専用端末を患者さまが簡単に操作して、

- 家庭の近くやターミナルの近くの、患者さまが希望する保険薬局に、地図ナビゲーションシステムを介して、薬局の所在地や行き方を分かりやすく誘導します。
- その際、患者さまが何時にお薬とりに行きたいのかを入力すると、その時のその薬局が開いているのか、（いつ休みなのか）などの情報を提供します。
- 患者さまが選択した調剤薬局に処方情報を直截FAX送信します。
- 同時に、担当医の連絡先や使える保険情報を提示し、薬局側の疑義判断を支援します。

現在は医療法規の制約から、院外薬局側では処方情報を事前にFAXで受信することになりますが、将来法的環境や運用が成熟してくることによって、「電子処方せん」（紙面に出力しない）に発展することを目指しています。

10月12日（金）の午前8時半頃より、本院外来ロビーの「院外処方情報FAX送信窓口」にて運用を開始する予定です。（運用終了は午後3時の予定です。）

○追加資料

開始に際してセレモニーは特に予定しておりませんが、国内初（世界初）となるシステムですので、できますれば、社会の皆様へご紹介いただければ幸いです。

問合せ先：広島大学医学部附属病院医療情報部長 石川 澄
Tel: 082-257-5082
FAX: 082-257-5084

保険薬局ナビゲーション／院外処方情報配信システムについて

広島大学

1. 保険薬局ナビゲーション／院外処方情報配信システム

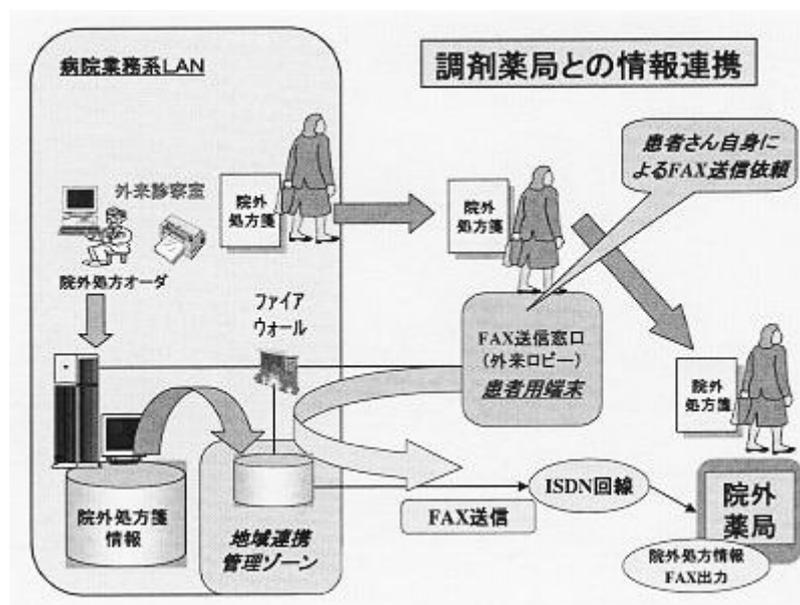
広島大学附属病院では、院外処方せんの原本を調剤薬局へFAXで送信するサービスが、県薬剤師会との連携により行われているが、紙での情報伝達と人手運用のため、

- 患者が希望する薬局を、患者さん自身が分かり易く探すのが難しい。
- 前回と同じ薬局の場合でも、毎回同じ送信依頼手続きをしなければならない。
- 病院と調剤薬局との情報連携にはあまり貢献できない。

など、患者サービスの面でも病院と調剤薬局との情報連携の面でも、今後大きな発展は期待できない。そこで、処方を受取を希望する調剤薬局を患者さん自身が選択しやすく誘導する、電子地図を活用した「保険薬局ナビゲーションシステム」と、患者さんが選択した調剤薬局に、病院情報システムから処方情報を円滑に事前送信する「院外処方情報配信システム」を開発した。

1-1 運用概要(下図参照)

附属病院の外来診察室で院外処方せん(原本)を受け取った患者のうち、FAX送信を希望する患者は、外来ロビーの院外ゾーンに設置したFAX送信端末を患者さん自身が操作して、送信希望薬局を選択しFAX送信を端末から依頼する。依頼情報は病院情報システムの院外処方データと連動し、選択された調剤薬局に事前にFAXで送られる。患者さんは希望の調剤薬局で処方せん原本を確認の上、処方せんを受け取る。



1-2 開発システムの機能変更

病院情報システムのセキュリティを保ち、患者プライバシーに配慮した上で、患者さん自身に端末を操作してもらうため、本システムに以下の機能を持たせた。

- 病院情報システムと連動した地域医療機関(調剤薬局)との効率的なデータ連携
- 患者さんが希望する調剤薬局へのナビゲーション機能(患者サービスの向上)
- 患者プライバシー保護を意識したセキュリティ機能

(1) 病院情報システムとの連携機能

ファイアウォールで病院情報システムを外部から守る。非武装中立ゾーンとして“地域連携管

理ゾーン”を設け、院外処方オーダーが発行された時、病院ホストから地域連携管理ゾーンのFAX送信サーバのデータベースに患者情報と院外処方内容を書き込む。アクセスは一方向とし、FAXサーバから病院業務LANへのアクセスはできない。患者自身によるFAX送信依頼情報をFAXサーバが受け取り、指定の薬局にFAX送信する。

(2) 調剤薬局ナビゲーション機能(下記画面例参照)

外来FAX窓口での、患者自身の端末操作による調剤薬局選択を容易にするためのナビゲーション機能を開発した。FAX送信を希望する患者さんは、画面上の案内に従い、タッチパネル操作で薬局を選択できるように。その際に、地図情報を有効に活用して、患者さん自らが自分の行きたい薬局(かかりつけ薬局)を選択しやすくするために、以下の機能を持たせた。

- * 患者さんがはじめてシステムを利用する時は、自宅近くの薬局を自動表示(他の地域の薬局選択も可能)
- * 2回目以降の利用の場合は、過去に利用した薬局名(直近の3回分まで)を画面に表示するので、簡単に選択可能。
- * 薬局のナビゲーションに有用な情報(例えば臨時休業情報)のタイムリーなアップデートと画面表示により、患者を適切な(営業中の)薬局にナビゲート



(3) 患者プライバシーへの配慮

患者さんが操作する処方情報送信依頼用端末と地域連携管理ゾーンとの情報のやり取りは、患者IDなど必要最小限の情報のみとする。患者が送信依頼操作を終了したら、個人データをすべて破棄し端末に情報を保持しない。

(4) かかりつけ薬局の分析機能

本システムで蓄積されるFAX送信ログを活用して、かかりつけ薬局に関する動向分析を可能とした。

2. 地域医療機関との双方向の情報交換のための基盤設計

地域医療機関との間で医療データをやり取りするための通信基盤の検討を行った。

- セキュリティ管理ゾーン(非武装中立ゾーン)を構築し病院情報システムと分離
- アクセスは市販の安価なパソコンのみで可能とする。(特別なハードやソフトを必要としない)。情報のやり取りにはWWWを使用することを前提とする。
- Point to Point 接続による連携形態とする。
- アクセス元機関の認証とアクセス者の認証機能により安全性を高める。

地域医療機関の実例として、県薬剤師会との間で相互に情報提供を行う仕組みを、上記の方針に基づいて「保険薬局ナビゲーション／処方情報配信システム」の中で作成した。これにより県薬剤師会との間での効率的な情報連携が可能となった。

